

聖金曜日（受苦日）の礼拝

奏 楽

沈黙のうちに司式者は入堂する。一同ひざまずいて黙祷する。

司式者は立って次の特禱を唱える。

特 禱

全能の神よ、あなたの家族であるわたしたちを、慈しみのうちに見守ってください。主イエス・キリストは、この家族を救うために甘んじて裏切られ、^{つみびと}罪人の手に渡され、十字架の死を遂げられました。父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストに栄光がありますように。アーメン

会衆は着席する。

み言葉

旧約聖書

朗読者 旧約聖書はイザヤ書第 52 章 13 節から

（主の僕の苦難と死）

- 13 見よ、わたしの僕^{しもべ}は栄える。はるかに高く上げられ、あがめられる。
- 14 かつて多くの人をおののかせたあなたの姿のように 彼の姿は^{そこ}損なわれ、人とは見えず、もはや人の子の面影はない。
- 15 それほどに、彼は多くの民を驚かせる。彼を見て、王たちも口を閉ざす。だれも物語らなかつたことを見、一度も聞かされなかつたことを悟ったからだ。
- 1 わたしたちの聞いたことを、誰が信じえようか。主は^{みうで}御腕の力を誰に示されたことがあろうか。
- 2 乾いた地に^う埋もれた根から生え出た若枝のように、この人は主の前に育った。見るべき面影はなく、輝かしい風格も、好ましい容姿もない。
- 3 彼は軽蔑され、人々に見捨てられ、多くの痛みを負い、病を知っている。彼はわたしたちに顔を隠し、わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。
- 4 彼が^{にな}担ったのはわたしたちの^{やまい}病、彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに、わたしたちは思っていた、神の手にかかり、打たれたから、彼は苦しんでいるのだ、と。
- 5 彼が刺し貫かれたのは、わたしたちの^{そむ}背きのためであり、彼が打ち砕かれたのは、わたしたちの^{とが}ためであった。彼の受けた^こ懲らしめによって、わたしたちに平和が与えられ、彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。
- 6 わたしたちは羊の群れ、道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて、主は彼に負わせられた。

- 7 苦役を課せられて、かがみ込み、彼は口を開かなかった。屠り場に引かれる小羊のように、毛を切る者の前に物を言わない羊のように、彼は口を開かなかった。
- 8 捕らえられ、裁きを受けて、彼は命を取られた。彼の時代の誰が思い巡らしたであろうか、わたしの民の背きのゆえに、彼が神の手にかかり、命ある者の地から断たれたことを。
- 9 彼は不法を働かず、その口に偽りもなかったのに、その墓は神に逆らう者と共にされ、富める者と共に葬られた。
- 10 病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ、彼は自らを償いの献げ物とした。彼は、子孫が末永く続くのを見る。主の望まれることは、彼の手によって成し遂げられる。
- 11 彼は自らの苦しみの実りを見、それを知って満足する。わたしの僕は、多くの人々が正しい者とされるために、彼らの罪を自ら負った。
- 12 それゆえ、わたしは多くの人を彼の取り分とし、彼は戦利品としておびただしい人を受け。彼が自らをなげうち、死んで、罪人のひとりに数えられたからだ。多くの人々の過ちを担い、背いた者のために執り成しをしたのは、この人であった。

(52 : 13 - 53 : 12)

朗読者 旧約聖書を終わります

黙想

詩 編 31 : 9 - 19

- 9 主よ、悩み苦しむわたしに憐れみを示してください || わたしの目は悲しみに衰え、身も心も弱り果てた
- 10 わたしの命は悲しみに消え去り、年月は嘆きのうちに過ぎ去った || 苦しみに力は尽き果て、骨は枯木のようになった
- 11 敵はみなわたしをあざけり、わたしは隣り人の災いとなる || 親しい友はわたしを恐れ、会う人は避けて背を向ける
- 12 わたしは死んだ人のように忘れられ || 壊れた器のようになった
- 13 人びとのささやきが聞こえる。恐怖が周りから忍び寄り || わたしに刃向かう者が集まって、わたしの命をねらっている
- 14 主よ、わたしはあなたに寄り頼む || 「あなたこそわたしの神」
- 15 あなたのみ手にわたしの命をゆだねます || わたしの敵と追手から救い出してください
- 16 あなたの顔を僕の上に輝かせ || 慈しみによって救ってください
- 17 あなたに叫ぶわたしは、恥を受けることがない || 悪人は恥をさらし、口をふさがれて死の国に落とされる

18 あなたに従う人をさげすみ高ぶる者 || 偽りを語る者の口を封じてください

19 神よ、慈しみはあなたを敬う人に豊かに溢れ || あなたに頼る者に注がれて、人びとに示される

使徒書

朗読者 使徒書はヘブライ人への手紙第10章1節から

1 いったい、律法には、やがて来る良いことの影があるばかりで、そのものの実体はありません。従って、律法は年ごとに絶えず献げられる同じいけにえによって、神に近づく人たちを完全な者にはできません。2 もしできたとするなら、礼拝する者たちは一度清められた者として、もはや罪の自覚がなくなるはずですから、いけにえを献げることは中止されたはずではありませんか。3 ところが実際は、これらのいけにえによって年ごとに罪の記憶がよみがえって来るのです。4 雄牛や雄山羊の血は、罪を取り除くことができないからです。

5 それで、キリストは世に来られたときに、次のように言われたのです。

「あなたは、いけにえや献げ物を望まず、むしろ、わたしのために、体を備えてくださいました。

6 あなたは、焼き尽くす献げ物や、罪を贖うためのいけにえを好まれません。7 そこで、わたしは言いました。『御覧ください。わたしは来ました。聖書の巻物にわたしについて書いてあるとおり、神よ、御心を行うために。』

8 ここで、まず、「あなたはいけにえ、献げ物、焼き尽くす献げ物、罪を贖うためのいけにえ、つまり律法に従って献げられるものを望みもせず、好まれもしなかった」と言われ、9 次いで、「御覧ください。わたしは来ました。御心を行うために」と言われています。第二のものを立てるために、最初のを廃止されるのです。10 この御心に基ついて、ただ一度イエス・キリストの体が献げられたことにより、わたしたちは聖なる者とされたのです。

11 すべての祭司は、毎日礼拝を献げるために立ち、決して罪を除くことのできない同じいけにえを、繰り返して献げます。12 しかしキリストは、罪のために唯一のいけにえを献げて、永遠に神の右の座に着き、13 その後は、敵どもが御自分の足台となってしまうまで、待ち続けておられるのです。14 なぜなら、キリストは唯一の献げ物によって、聖なる者とされた人たちを永遠に完全な者となさったからです。

15 聖霊もまた、わたしたちに次のように証しておられます。16 『それらの日の後、わたしが、彼らと結ぶ契約はこれである』と、主は言われる。『わたしの律法を彼らの心に置き、彼らの思いにそれを書きつけよう。17 もはや彼らの罪と不法を思い出しはしない。』18 罪と不法の赦しがある以上、罪を贖うための供え物は、もはや必要ではありません。

19 それで、兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によって聖所に入れると確信しています。

20 イエスは、垂れ^た幕^{まく}、つまり、御自分の肉を通して、新しい生きた道をわたしたちのために開いてくださったのです。21 更に、わたしたちには神の家を支配する偉大な祭司がおられるのですから、22 心は清められて、良心のとがめはなくなり、体は清い水で洗われています。信頼しきって、^{まごころ}真心から神に近づこうではありませんか。23 約束してくださったのは真実な方なので、^{おおやけ}公に言い^{あらわ}表した希望を揺るがぬようしっかり保ちましょう。24 互いに愛と善行に励むように心がけ、25 ある人たちの習慣に^{なら}倣って集會を^{おこた}怠ったりせず、むしろ励まし合ひましょう。かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、ますます励まし合おうではありませんか。

(10 : 1 - 25)

朗読者 使徒書を終わります

黙想

一同立つ。

聖歌

会衆は着席する。

福音書

朗読者 ヨハネ福音書による主イエス・キリストの受難 (18、19 : 1 - 42)

裏切られ、逮捕される

1 こう話し終えると、イエスは弟子たちと一緒に、キドロンの谷の向こうへ出て行かれた。そこには園があり、イエスは弟子たちとその中に入られた。2 イエスを裏切ろうとしていたユダも、その場所を知っていた。イエスは、弟子たちと共に度々ここに集まっておられたからである。3 それでユダは、一隊の兵士と、祭司長たちやファリサイ派の人々の遣わした下役たちを引き連れて、そこにやって来た。松明やともし火や武器を手にしていた。4 イエスは御自分の身に起こることを何もかも知っておられ、進み出て、「だれを捜しているのか」と言われた。5 彼らが「ナザレのイエスだ」と答えると、イエスは「わたしである」と言われた。イエスを裏切ろうとしていたユダも彼らと一緒にいた。6 イエスが「わたしである」と言われたとき、彼らは^{あと}後ずさりして、地に倒れた。7 そこで、イエスが「だれを捜しているのか」と重ねてお尋ねになると、彼らは「ナザレのイエスだ」と言った。8 すると、イエスは言われた。『わたしである』と言ったではないか。わたしを捜しているのなら、この人々は去らせなさい。」9 それは、「あなたが与えてくださった人を、わたしは一人も失いませんでした」と言われたイエスの言葉が実現するためであった。

10 シモン・ペトロは^{つるぎ}剣を持っていたので、それを抜いて大祭司の手下に打ってかかり、その右の耳を切り落とした。手下の名はマルコスであった。11 イエスはペトロに言われた。「^{つるぎ}剣をさやかに納めなさい。父がお与えになった杯は、飲むべきではないか。」

イエス、大祭司のもとに連行される

12 そこで一隊の兵士と千人隊長、およびユダヤ人の^{したやく}下役たちは、イエスを捕らえて縛り、13 まず、アンナスのところへ連れて行った。彼が、その年の大祭司カイアフアのしゅうとだったからである。14 一人の人間が民の代わりに死ぬ方が好都合だと、ユダヤ人たちに助言したのは、このカイアフアであった。

ペトロ、イエスを知らないと言う

15 シモン・ペトロともう一人の弟子は、イエスに従った。この弟子は大祭司の知り合いだったので、イエスと一緒に大祭司の屋敷の中庭に入ったが、16 ペトロは門の外に立っていた。大祭司の知り合いである、そのもう一人の弟子は、出て来て門番の女に話し、ペトロを中に入れた。17 門番の女中はペトロに言った。「あなたも、あの人の弟子の一人ではありませんか。」ペトロは、「違う」と言った。18 僕や下役たちは、寒かったので炭火をおこし、そこに立って火にあたっていた。ペトロも彼らと一緒に立って、火にあたっていた。

大祭司、イエスを尋問する

19 大祭司はイエスに弟子のことや教えについて尋ねた。20 イエスは答えられた。「わたしは、世に向かって公然と話した。わたしはいつも、ユダヤ人が皆集まる会堂や神殿の境内で教えた。ひそかに話したことは何もない。21 なぜ、わたしを尋問するのか。わたしが何を話したかは、それを聞いた人々に尋ねるがよい。その人々がわたしの話したことを知っている。」22 イエスがこう言われると、そばにいた下役の一人が、「大祭司に向かって、そんな返事のしかたがあるか」と言って、イエスを^{ひらて}平手で打った。23 イエスは答えられた。「何か悪いことをわたしが言ったのなら、その悪いところを証明しなさい。正しいことを言ったのなら、なぜわたしを打つのか。」24 アンナスは、イエスを縛ったまま、大祭司カイアフアのもとに送った。

ペトロ、重ねてイエスを知らないと言う

25 シモン・ペトロは立って火にあたっていた。人々が、「お前もあの男の弟子の一人ではないのか」と言うと、ペトロは打ち消して、「違う」と言った。26 大祭司の僕の一人で、ペトロに片方の耳を切り落とされた人の身内の者が言った。「園であの男と一緒にいるのを、わたしに見られたではないか。」27 ペトロは、再び打ち消した。するとすぐ、^{にわとり}鶏が鳴いた。

ピラトから尋問される

28 人々は、イエスをカイアフアのところから総督官邸に連れて行った。明け方であった。しかし、彼らは自分では官邸に入らなかった。^{けが}汚れないで過越の食事をするためである。29 そこで、ピラトが彼らのところへ出て来て、「どういう罪でこの男を訴えるのか」と言った。30 彼らは答えて、「この男が悪いことをしていなかったら、あなたに引き渡しはしなかったでしょう」と言った。

31 ピラトが、「あなたたちが引き取って、自分たちの律法に従って裁け」と言うと、ユダヤ人たちは、「わたしたちには、人を死刑にする権限がありません」と言った。32 それは、御自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、イエスの言われた言葉が実現するためであった。33 そこで、ピラトはもう一度官邸に入り、イエスを呼び出して、「お前がユダヤ人の王なのか」と言った。34 イエスはお答えになった。「あなたは自分の考えで、そう言うのですか。それとも、ほかの者がわたしについて、あなたにそう言ったのですか。」35 ピラトは言い返した。「わたしはユダヤ人なのか。お前の同胞や祭司長たちが、お前をわたしに引き渡したのだ。いったい何をしたのか。」36 イエスはお答えになった。「わたしの国は、この世には属していない。もし、わたしの国がこの世に属していれば、わたしがユダヤ人に引き渡されないように、部下が戦ったことだろう。しかし、実際、わたしの国はこの世には属していない。」37 そこでピラトが、「それでは、やはり王なのか」と言うと、イエスはお答えになった。「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」38 ピラトは言った。「真理とは何か。」

死刑の判決を受ける

ピラトは、こう言ってからもう一度、ユダヤ人たちの前に出て来て言った。「わたしはあの男に何の罪も見いだせない。39 ところで、過越祭にはだれか一人をあなたたちに釈放するのが慣例になっている。あのユダヤ人の王を釈放してほしいか。」40 すると、彼らは、「その男ではない。バラバを」と大声で言い返した。バラバは強盗であった。

1 そこで、ピラトはイエスを捕らえ、鞭で打たせた。2 兵士たちは^{いぼら}茨で冠を編んでイエスの頭に載せ、紫の服をまとわせ、3 そばにやって来ては、「ユダヤ人の王、万歳」と言って、^{ひらて}平手で打った。4 ピラトはまた出て来て、言った。「見よ、あの男をあなたたちのところへ引き出そう。そうすれば、わたしが彼に何の罪も見いだせないわけが分かるだろう。」5 イエスは茨の冠をかぶり、紫の服を着けて出て来られた。ピラトは、「見よ、この男だ」と言った。6 祭司長たちや下役たちは、イエスを見ると、「十字架につけろ。十字架につけろ」と叫んだ。ピラトは言った。「あなたたちが引き取って、十字架につけるがよい。わたしはこの男に罪を見いだせない。」7 ユダヤ人たちは答えた。「わたしたちには律法があります。律法によれば、この男は死罪に当たります。神の子と自称したからです。」

8 ピラトは、この言葉を聞いてますます恐れ、9 再び総督官邸の中に入って、「お前はどこから来たのか」とイエスに言った。しかし、イエスは答えようとされなかった。10 そこで、ピラトは言った。「わたしに答えないのか。お前を釈放する権限も、十字架につける権限も、このわたしにあることを知らないのか。」11 イエスは答えられた。「神から与えられていなければ、わたしに対して何の権限もないはずだ。だから、わたしをあなたに引き渡した者の罪はもっと重い。」12 そこで、ピラトはイエスを釈放しようと努めた。しかし、ユダヤ人たちは叫んだ。「もし、この男を釈放するなら、あなたは皇帝の友ではない。王と自称する者は皆、皇帝に背いています。」

13 ピラトは、これらの言葉を聞くと、イエスを外に連れ出し、ヘブライ語でガバタ、すなわち「敷石」という場所で、裁判の席に着かせた。14 それは過越祭の準備の日の、正午ごろであった。ピラトがユダヤ人たちに、「見よ、あなたたちの王だ」と言うと、15 彼らは叫んだ。「殺せ。殺せ。十字架につける。」ピラトが、「あなたたちの王をわたしが十字架につけるのか」と言うと、祭司長たちは、「わたしたちには、皇帝のほかには王はありません」と答えた。16 そこで、ピラトは、十字架につけるために、イエスを彼らに引き渡した。

十字架につけられる

こうして、彼らはイエスを引き取った。17 イエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる「されこうべの場所」、すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。18 そこで、彼らはイエスを十字架につけた。また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架につけた。19 ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上に掛けた。それには、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と書いてあった。20 イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がその罪状書きを読んだ。それは、ヘブライ語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。21 ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、『ユダヤ人の王』と書かず、『この男は「ユダヤ人の王」と自称した』と書いてください』と言った。22 しかし、ピラトは、「わたしが書いたものは、書いたままにしておけ」と答えた。23 兵士たちは、イエスを十字架につけてから、その服を取り、四つに分け、各自に一つずつ渡るようにした。下着も取って見たが、それには縫い目がなく、上から下まで一枚織りであった。24 そこで、「これは裂かないで、だれのものになるか、くじ引きで決めよう」と話し合った。それは、

「彼らはわたしの服を分け合い、

わたしの衣服のことでくじを引いた」

という聖書の言葉が実現するためであった。兵士たちはこのとおりにしたのである。25 イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。26 イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。27 それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。

イエスの死

28 この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「渇く」と言われた。こうして、聖書の言葉が実現した。29 そこには、酸いぶどう酒を満たした器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソプに付け、イエスの口もとに差し出した。30 イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。

イエスのわき腹を槍で突く

31 その日は準備の日で、翌日は特別の安息日であったので、ユダヤ人たちは、安息日に遺体を十字架の上に残しておかないために、足を折って取り降ろすように、ピラトに願い出た。32 そこ

で、兵士たちが来て、イエスと一緒に十字架につけられた最初の男と、もう一人の男との足を折った。33 イエスのところに来てみると、既に死んでおられたので、その足は折らなかった。34 しかし、兵士の一人が槍でイエスのわき腹を刺した。すると、すぐ血と水とが流れ出た。35 それを目撃した者が証ししており、その証しは真実である。その者は、あなたがたにも信じさせるために、自分が真実を語っていることを知っている。36 これらのことが起こったのは、「その骨は一つも砕かれない」という聖書の言葉が実現するためであった。37 また、聖書の別の所に、「彼らは、自分たちの突き刺した者を見る」とも書いてある。

墓に葬られる

38 その^{のち}後、イエスの弟子でありながら、ユダヤ人たちを恐れて、そのことを隠していたアリマタヤ出身のヨセフが、イエスの遺体を取り降ろしたいと、ピラトに願い出た。ピラトが許したので、ヨセフは行って遺体を取り降ろした。39 そこへ、かつてある^よ夜、イエスのもとに来たことのあるニコデモも、^{もつやく}没薬と^{じんこう}沈香を混ぜた物を百リトラばかり持って来た。40 彼らはイエスの遺体を受け取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従い、香料を添えて亜麻布で包んだ。41 イエスが十字架につけられた所には園があり、そこには、だれもまだ葬られたことのない新しい墓があった。42 その日はユダヤ人の準備の日であり、この墓が近かったので、そこにイエスを納めた。

朗読者 これは主イエス・キリストの受難

聖歌

説教

一同立つ。

十字架の主に対する崇敬と賛美

司祭は十字架を高く挙げて言う。

司祭 見よ、主の十字架、世の救い

会衆 ともにあがめ、たたえよう

次の十字架の賛歌を一同で唱える。

賛美 1

主よ、十字架の主をあがめ || その復活をたたえます

見よ、この十字架のいさおによって || あまねく世界に喜びが来た

神よ、恵みと祝福と || み顔の光をわたしたちに
主の道を地の上に || 救いの喜びを世に知らせてください
主よ、十字架の主をあがめ || その復活をたたえます
見よ、この十字架のいさおによって || あまねく世界に喜びが来た

賛美2

キリストよ、あなたをあがめ、ほめ、たたえます
主は十字架によって世を^{あがな}贖われた
キリストは肉体のうちにご自身を現し
聖霊によって支えられた
み使いによってたたえられ
世の国々に宣べ伝えられ
すべての人に信じられ
天のみくらにおいてほめたたえられた
キリストよ、あなたをあがめ、ほめ、たたえます
主は十字架によって、世を贖われた

聖歌 (献金)

司祭 全能の父なる神よ、この信施を受け、主のみ業のために用いてください。
会衆 すべてのものは主の賜物。わたしたちは主から受けて主に献げたのです。アーメン

会衆は着席する。

代 禱

司式者 神がみ子をこの世にお遣わしになったのは、この世を罪に定めるためではなく、み子によってこの世を救うためでした。ゆえに、天にいますわたしたちの父が、すべての人をその必要に応じて顧みてくださるよう祈りましょう。

世界に広がる神の教会のために祈りましょう

信仰と証しと奉仕の働きにおける一致のために
主教たちと他の聖職、および彼らが仕える人びとのため
わたしたちの主教とこの教区のすべての信徒のため
この地域のすべてのキリスト信徒のため

すべての洗礼志願者のために、ことに、この復活日に洗礼の恵みにあずかる人びとのために
信仰のゆえにあざけられ、また、迫害されている人びとのために、祈りましょう
どうか、神が教会の信仰を強め、愛を増し加え、平和のうちに教会を保ってくださいますように

黙 禱

司式者 主よ、お聞きください

会衆 主よ、慈しみをもってお聞きください

司式者 永遠にいます全能の神よ、あなたの全公会は聖霊によって治められ、清められます。どうか、主の民のために捧げる祈りをお聞きください。一人ひとりが与えられた召命と奉仕職のうちにあって主に仕え、ますます清さと真理に進み、み名の栄光を現すことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。**アーメン**

世界の国々と、その指導者のために祈りましょう

立法に奉仕する人びとのために

行政に奉仕する人びとのために

正義と和解の業に奉仕する人びとのために、祈りましょう

どうか、神の助けによって、世界の人びとが、平和と自由のうちに生きることができますように。

黙 禱

司式者 主よ、お聞きください

会衆 主よ、慈しみをもってお聞きください

司式者 慈しみ深い父なる神よ、わたしたちの平和はあなたのみ心のうちにあります。どうかわたしたちとすべての人の心をあなたに向けさせ、聖霊の力によって、正義に基づく平和をこの世界に打ち立ててください。主イエス・キリストによってお願いいたします。**アーメン**
み言葉を最初に聞いた人びとであり、神の古い契約の民であるユダヤ人のために祈りましょう。

キリスト教の信徒とユダヤ教の信徒との相互の理解が一層進むために、またわたしたちの心のかたくなさが取り除かれるために祈りましょう。

どうか、わたしたちが神の契約に一層忠実となり、神の愛のうちに成長する恵みが与えられますように

黙 禱

司式者 主よ、お聞きください

会衆 主よ、慈しみをもってお聞きください

司式者 アブラハムの神、主よ、あなたの契約の子であるユダヤ教の信徒とキリスト教信徒をとも

に祝福し、わたしたちの心のかたくなさを取り除いてください。古いイスラエルが救われ、異邦人たちもともに入らるみ国を早く来たらせ、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神の下に、互いの愛と神の平和のうちに過ごすことができますように。 **アーメン**

キリストの福音を信じていない人びとのために祈りましょう

他の信仰と信条に従っている人びとのために

救いの使信をまだ聞いたことのない人びとのために

信仰を失ってしまった人のため

信仰をあざける人のため

キリストに敵対し、キリストに従う者を迫害する人びとのために

十字架につけられたキリストを信じる信仰を否定する人びとのために祈りましょう

どうか、神が彼らの心を真理に向かって開き、信仰と服従へ導いてくださいますように

黙 禱

司式者 主よ、お聞きください

会衆 主よ、慈しみをもってお聞きください

司式者 慈しみ深い神、地上のすべての人を造られた主よ、あなたを知らないでいるすべての人に憐れみを与え、あなたの福音が、恵みと力のうちに宣べ伝えられることにより、これらの人びとを、一人の羊飼いわたしたちの主イエス・キリストのふところに集めてください。

アーメン

苦難のうちにある人びとのために祈りましょう

持ち物を奪われ、弾圧されている人びとのために

病気の人、障がいのある人びとのために

暗黒と疑いと絶望、孤独と不安のうちにある人びとのために

牢獄に入れられている人びとのために

誤った非難と暴力の犠牲となっている人びとのために

死に臨んでいる人と、看護する人のために祈りましょう

どうか、神がその憐れみをもって彼らを顧み、彼らがますます神の愛を悟ることができますように

黙 禱

司式者 主よ、お聞きください

会衆 主よ、慈しみをもってお聞きください

司式者 悲しむ者の慰め主、苦しむ者の力である永遠にいます全能の神よ、苦しみのうちにあって叫ぶあなたの子どもの祈りをお聞きください。どうか、打ちひしがれた魂に、あなたの

憐れみと救い、大いなる力をお与えくださいますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

わたしたちと、すべての神の子どもらが、尽きることのない神の愛に自らをゆだねることができますように

み恵みによってこの世にあつて清い生活を送り、ついに、キリストの平安のうちに世を去ったすべての人とともに、わたしたちを永遠の命と復活の喜びに至らせてくださいますように

憐れみ深い神よ、これらの祈りをみ子、救い主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司式者 主イエスの教えてくださった言葉を用いてみ国の来臨のために祈りましょう

天におられるわたしたちの父よ、み名が聖とされますように。み国が来ますように。み心が天に行なわれるとおり、地にも行なわれますように。わたしたちの日ごとの糧^{かて}を今日^{きょう}もお与えください。わたしたちの罪をお赦してください。わたしたちも人を赦します。わたしたちを誘惑に陥らせず、悪からお救いください。

国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。アーメン

しばらく沈黙する。

そののち次の結びの祈りによって式を終わる。

結びの祈り

み子イエス・キリストの死と復活によって人類を贖い、救われた憐れみ深い神よ、十字架の上に苦しみを受けられたみ子への信仰によって、わたしたちをも主の勝利にあずからせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

聖 歌

奏 楽